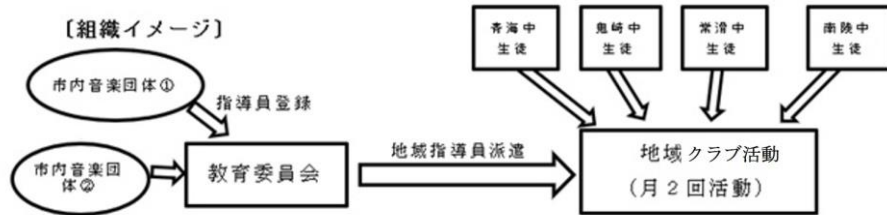


## I. 基本情報

運営主体： 常滑市ジュニア吹奏楽団

事業目標： ・吹奏楽部の休日の部活動（月2回）を地域クラブ活動として実施することで、教員の休日の部活動の指導時間を減少させる。  
・吹奏楽部をモデルとして地域移行することで、休日の部活動の地域移行の在り方を検討するため。

## 団体・組織等の連携



## II. 活動概要・取組

- ・基本的に1室で合奏練習を行い、随時、複数の部屋に分かれ、パート練習を行っている。
- ・場合によって、ホール練習を実施している。
- ・1回の活動は指導者が2～4名程度（うち兼職兼業教職員1～2名）、サポーターが5～7名程度が参加。
- ・全体指導を行う主指導者が全体の練習を行い、その他の指導者がそれを補佐する形で活動している。
- ・サポーターは、各パートで生徒たちと一緒に演奏することで正しい音を指導するとともに、困っている生徒の手助けを行っている。
- ・パート練習時は、指導者やサポーターが分かれて、原則として全パートに指導者がいる形での活動となっている。
- ・特性のある生徒についても、全生徒と共に同じ活動をしており、見守りの指導者が全体状況を見ながら、支援を行っている。

## III. 成果

## 【吹奏楽顧問の負担軽減】

・9月から3月までに計6回の活動を行っていることから吹奏楽部顧問の負担軽減を図っている。

（顧問・副顧問2名×3時間×6日間×4中学校＝144時間削減）

※ただし、コンクール等については、学校単位で参加したい旨が打ち合わせの中で顧問から意見があったため、学校部活動の時間も試行段階では確保することを目的としてコンクールの一か月前の地域クラブ活動は、基本的に行わない方針を取ったことから活動日数が大幅に減っている。

・地域クラブ活動を実施したことで、今後、今までの学校部活動がなくなっていくことを生徒・保護者・教職員に周知できたことが良かった。他の部活動にも取り組みやすい事例となった。一方で、今後、学校部活動がなくなることに對する不満感が生徒・保護者から聞こえてきたことから、学校部活動についての認識を改めてもらう必要があることが分かった。

・活動は、公共施設を利用し、一か所集約で活動をしているため、各校から楽器の輸送を行っており、基本的には、学校の楽器を利用している。楽器輸送は生徒・保護者に依頼しているが、生徒・保護者の都合により持て来れない場合もある。また、大型楽器については、持ち運べるものではない。その状況を改善するため、文化会館・中央公民館に保管してある。  
※常滑市ジュニア吹奏楽団、常滑市吹奏楽団の楽器を借用し、生徒・保護者の負担を軽減している。  
・人材確保としては、市内にある三つの音楽団体の代表に話をし、地域クラブ活動に賛同していただける方を指導者及びサポーターに登録している。

## 活動種別

吹奏楽

## 運営形態

地域移行・市区町村運営型

## 活動場所

文化会館・中央公民館

## 鍵、校舎管理の工夫・現状

公共施設利用のため、必要なし

## 参加生徒の基本情報

人数：青海中学校8名  
鬼崎中学校16名  
常滑中学校27名  
南陵中学校9名

活動日：第1・3土曜日

活動時間：13：00～16：30

## 指導者の基本情報

・指導者・サポーター16名  
・指導を希望する教職員3名

## 活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 49.4万円

## IV. 課題と今後の方針

## 【課題①活動資金調達】

・活動費については、保護者負担を含めた検討をしていく必要がある。今後、活動を維持していくための経費を計算し、適正な額を検討していく。  
・保護者負担及び市費のみでの持続可能な活動を維持していくことは課題が多く、教職員の働き方改革の一環で、地域移行を進めており、教員の部活動へ従事する際の手当の削減にもつながっているため、国・県の財政的支援は不可欠であると認識している。

## 【課題②人材確保】

・指導者・サポーター等の協力者は比較的に多いが、県人材バンクの活用等も検討していく。  
・音楽関係団体及び芸術大学の生徒・卒業生を含めた人材を募集できる体制を構築していく。

## 【その他】

・参加者にメリットがあることを周知していくことで、生徒送迎、楽器輸送、保護者費用負担への理解を図る。  
・貧困等を理由に活動に参加できないことのないような配慮を検討していく。